

# ふくおが

3月



青年女性会議スポーツ交流会♪ 団体優勝チーム「久留米青年女性部」

## 3・4月の 主な行事

3月 1日	乳質改善参与会	26日	第13回理事会	4月 1日	辞令交付
15日	支所監査	26日	乳質改善協議会	26日	第1回理事会
18日	三役会	29日	棚卸監査	29日	酪政連総会
19日	酪政連委員会				
22日	経営管理会議				

組合トピックス ……	1～2	色色問答 ……	5
コラム・MOMOステーション…	3	告知 ……	6

# 平成三十年度ふくおか県酪農 青年女性会議スポーツ交流会開催!!

去る二月十三日(水)筑紫野市スポーツプラザにおいて、ふくおか県酪農青年女性会議 主催のスポーツ交流会(ボーリング)を開催致しました。  
交流会には三十一名の酪友が集い、非常に盛り上がったゲームが行われ楽しい一日となりました♪  
参加者の皆さま、お疲れ様でした!!



▲草場副組合長挨拶



順位	団体	個人(男性)	個人(女性)
優勝	久留米青年女性部	今泉 修(福岡)	原口 恵子(久留米)
準優勝	朝倉青年女性部	今村 和彦(久留米)	末継 真由美(福岡)
3位	福岡青年女性部	堀田 翔五(久留米)	片峰 多恵子(福岡)

# 酪農ヘルパー研修会を開催しました!

二月二日(金)に福岡県内の各酪農ヘルパー利用組合のヘルパーさんを集めて研修会を開催しました。  
講師には、兵庫県酪農ヘルパー利用組合の組合長であります波多野省三(はだのしょうぞう)氏をお招きし『酪農ヘルパー利用組合の広域化による合併事例』について講義していただきました。

講義の中で、運営を円滑に行う上で、ヘルパーと組合員の関係は対等が望ましいと述べられ、そうなるよう尽力されているとのことでした。  
講義後には、日頃、疑問に思っていることなどに対して熱心に質疑応答が行われました。  
参加されたヘルパーさん、たいへんお疲れさまでした!



▶主催者挨拶



▶講義風景

## 平成三十年年度 福岡県乳用牛群改良 検定組合講習会が開催されました

平成三十一年二月二十日(水)筑紫野市文化会館において乳用牛群改良検定組合講習会が開催され、県内の検定農家や県普及所等の関係職員約四十五名が熱心に講習を受講しました。

今回の講師は、前回に引き続き県酪職員である専任指導員三名が担当し、『近況報告』から始まり『暑



熱対策について』『繁殖Webシステムの利用』『牛群検定情報を繁殖成績向上に活用しよう!』といった内容にて行われました。参加者の皆さんは講師の話に熱心に聞かれ、活発な質疑応答がなされました。参加された組合員の皆さん、大変お疲れさまでした!!

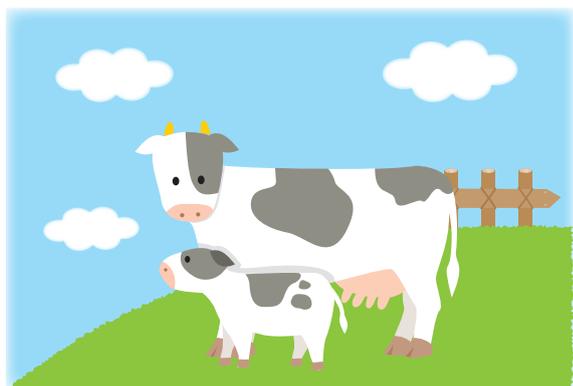


## 「フクオカカカフェマルシエ」(旧あまおう祭り) 福岡県産牛乳と乳製品をPR

二月二十三日(土)、二十四日(日)に、県産ブランドをPRする「フクオカカカフェマルシエ(旧あまおう祭り)」が福岡市役所西側ふれあい広場に

て開催、本組合も参加しました。県酪オリジナル乳製品の販売を行い、多くの人に乳製品のPRをする事ができました。





全国酪農業協同組合連合会  
 購買生産指導部 技術顧問  
 久保園 弘

## 水田をもっと活用しよう！

福岡県の耕地面積で一番多いのが水田面積です。牧草の栽培面積二七七haに対して、水田の面積は六六八〇haもあります。この水田を活かして、夏作のWCS用イネ、冬作のイタリアンライグラスを利用している酪農家の方が多いと思います。

栽培が酪農家自身ではなく、耕種農家の場合も多いでしょう。作るのは誰であれ、自給飼料を利用するのはいいことだと思います。近年の動きを見ると、輸入乾草の価格は上げ基調で推移していますので、コスト低減を求めて、自給飼料に意識をおくのは当然の成り行きです。

福岡県では、この水田の活用が酪農家にとってもウエイトが大きいのではないかと思えます。最近の動きとして、転作田にトウモロコシの作付が話題になっています。特に北海道の水田転換畑で面積が増加中です。元々、転作してジャガイモ、大豆や小麦等でローテーションしていたのですが、輪作作物としてトウモロコシを作付すると、後作が収量増と

なることから、面積が増加してきたようです。これはトウモロコシの根張りが、地下深くまで浸透し、圃場の排水性が高まって、後作の根張りや連作障害の回避等で良い効果を与えているからです。

福岡県の酪農場では、水田から多くのWCS用イネが生産されています。しかし最近、WCS用イネでは物足りないという声を聞くことが多くなりました。喰い込みや乳量、品質等がイマイチだと感じているようです。WCS用イネでは物足りないと感じている方は、転換畑でのトウモロコシ栽培にチャレンジしてみ

てはどうでしょう。北海道のように子実トウモロコシではなく、サイレージ用トウモロコシで十分圃場生産性が改善可能です。また、WCS用イネと違い、トウモロコシは圃場の管理時間が桁違いに少なくなり、イネと違って、労力面での拘束時間が少なくなるばかりでなく、単位面積当たりの収量面でもプラスになるので、耕種農家にも喜ばれます。酪

農家ではさらにコーンサイレージによる産乳量のアップが見込まれます。ただし、トウモロコシは耐湿性がよくありませんから水系を切ることでできれば、番良いですが、無理な場合はできるだけ排水性の改善が必要です。プラウやサブソイラで心土破碎・硬盤破壊を行い、圃場の排水性を高めてあげることが重要です。その際、明渠等の補助的な排水対策も有効となります。転作が長年続く転換畑では、すんなり硬盤破壊が可能です。借りている転換畑では、地主との話し合いが必要ですが、もし元の水田に戻さなければならなかった場合は、ケンブリッジローラーで鎮圧することで、元の水田に戻せま

す。硬盤破壊を行うことで耕作深度が増加し、トウモロコシだけでなく他の牧草等、飼料作物栽培においても収量が飛躍的に上がります。転作田の硬盤破壊による畑地と同様な利用で、トウモロコシや牧草の生産性が上がり、自給飼料の収量品質を高め、利用できる自給飼料の幅を拡

げたいものです。

元来、トウモロコシの根は軽く二五〜二八m程度の深さまで入る能力を持っています。従来のロータリー耕で

はせいぜい地下二〇〜四〇cmの根張りしかしませんので、トウモロコシの持っている大きな吸肥力が発揮できません。根張りの違いは収量に大きな差を生じ、当然、コーンサイレージとなった場合の産乳性生産乳量にも大きく差がでてきます。また、稲と違い、トウモロコシを栽培する場合は、多量の堆肥を入れることができますので、堆肥処理にも有益です。転換畑でのトウモロコシ栽培にチャレンジする価値は、高いと思われるます。

農林水産省の平成三十一年度予算から水田活用直接支払交付金(産地交付金)の中に、稲WCSや飼料米に混じて飼料作物も入っていますので、トウモロコシだけでなく、自給飼料を転作田で作る際は、以前より補助金も有利になっています。生産性を高めるために、是非、プラウ耕やサブソイラをかけて、トウモロコシ等の飼料作物を作ってみてはどうでしょうか。



▲サブソイラによる排水性改善

◀プラウによる深耕



# MOMOステーション

(ふくおか県酪農青年女性会議 ニュース)

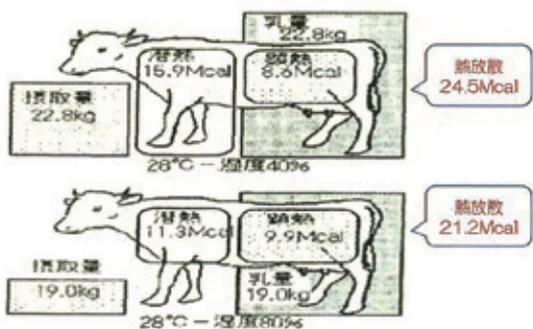
Vol.180

筑後地区酪農女性部です。十二月三日に南筑後普及指導センターの池田元彦氏をお迎えして、酪農講習会を開催いたしました。今回は、暑熱対策や堆肥についてクイズ形式での講習会で楽しくわかりやすい講習を行っていたことができました。

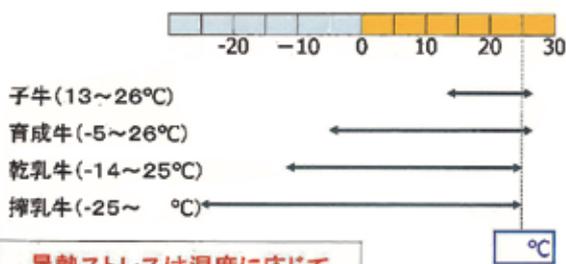
講習会後は親睦も兼ねての食事会で、みなさんの近況報告など楽しい時間を過ごしました。

## ～講習会資料抜粋～

### 湿度が熱放散に及ぼす影響 同一温度でも湿度が高いと不快指数上昇



### 1 搾乳牛の生産効率が落ちない温度の上限は何度でしょうか？(臨界温度)



暑熱ストレスは湿度に応じて概ね22~26度から始まる



# いろいろ 五色問答

三池千ヨツチヨ

## 酪農家の皆さん!! 自由化の対応は3・3運動の強化で

牛乳は栄養や多様な栄養健康機能が評価され需要は伸びていますが、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)やEUとの経済連携協定(EPA)の発効など貿易の自由化が進み、乳製品等の関税は段階的に下がり、輸入量の増加が危惧され、日本に輸出する相手国の酪農の実態を知ることが重要になってきています。チーズ等高品質乳製品の生産国であるフランスの酪農家の生産経営実態を調べてみました。(農業二六四七号「世界の農業は今」から主に引用)

フランスの農畜産物の自給率は二〇%で、日本の三八%(カロリーベース)とは大違いで、自国では消費しきれないほど生産しています。フランスの酪農経営数は五万八千で、一経営当たり乳牛六五頭、経営面積二七ha(内飼料七一ha)です。経営形態が地帯ごとで異なることから生産コストは分けて整理されました。この表からフランスでは、①自国では消費しきれないほど農畜産物が生産されているのに、酪農家

は手厚く保護され補助金が乳価の一五〜三四%も補っています。日本は食糧の自給率が低く、農村地域の過疎化や保全を保つためにも、酪農家への支援強化を求めべきです。②以上の生産原価は円に換算(ユーロ三〇円)すると五八円〜七五円で、経営の実態は生産費が売上高を上回る赤字経営で、生産構造を改革し生産コストを下げるか、乳価を上げないと経営的に成り立たない状況です。生産構造や生産技術の改善が求められているのは日本と同じです。

さて、「儲かるための3・3運動の展開」を酪農ミクス三本矢として①乳量、②乳飼比、③産次数の改善項目を①カウコンフォートの徹底、②指導者の活用、③ボデイコンディションスコアによるチェックを重点対策として全酪農家で取組み、年三%の改善を達成することを提案して二年になります。

目標は達成されましたか、各自で検討してください。乳量は「みるく情報」から推察すると達成され

そうです。これは酪農家の皆さんと指導者の方々が一体となって取組んだ結果です。「成せば成る」です。重点対策の強化を図り①乳量・九千kg以上、②乳飼比・四五%以下、③産次数・三・〇産以上を達成すれば、貿易の自由化にも対応できます。三つの重点対策で三つの改善項目を毎年三%改善出来れば、新年号に相応しい燦・燦と輝く酪農家へと発展します。

フランス酪農家の生産コスト (2016年 ユーロ/1,000L)

	平野	牛乳と作物	山岳
生産量(1,000L)	621.9	669.3	434.3
生産費全体(ユーロ)	456	447	580
・労働	110	95	163
・農地と資本	33	30	42
・管理費(輸送、保険)	26	21	29
・建物	51	49	55
・機械(減価償却費、燃料等)	91	89	117
・畜産費(獣医、繁殖)	45	44	54
・草地(肥料、種子)	29	32	29
・飼料代	69	86	91
売上高(ユーロ)	412	404	495
・乳価	307	310	325
・副産物	49	46	58
・補助金	56	48	112

# 組合員の皆さまへ お知らせです!

## 「みるく情報ふくおか」発行頻度変更のお知らせ

会報誌「みるく情報ふくおか」につきましては、平成31年4月号より月刊から季刊(4、7、10、1月発行)へ変更させていただきます。

受託乳量など毎月の情報につきましては、別途送付いたしますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

## 完全週休二日制への移行について

弊組では、平成31年4月より、毎週土・日曜日を休日とする完全週休二日制へ移行させていただくこととなりました。

諸事情ご賢察の上、ご理解・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## H31年ゴールデンウィーク中の営業について

弊組では平成31年4月27日～5月6日の期間のうち、**4月30日(火)、5月1日(水)、2日(木)**の、三日間につきましては通常営業とさせていただきます。

# 1月分生乳販売実績

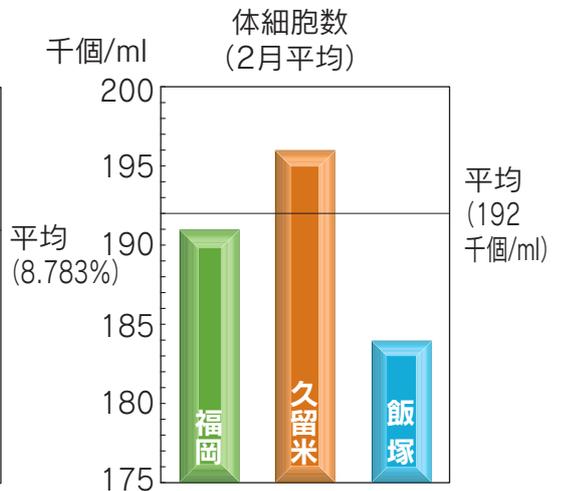
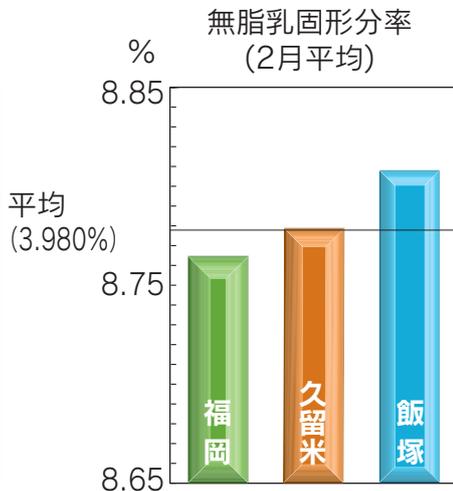
**受託乳量** 6,471,665kg  
**前年同月比** 98.1%  
**支払乳価** (九販連乳価率92%) **96.520円**  
**プール費用・単価** 送乳経費 **3.629円**  
 CS・冷却費 **0.962円**

**支払乳価**: 当月の販売実績により、求められた金額に九販連の乳価率を乗じ算出  
**プール費用**: 区域外への送乳経費及びCS・冷却費



## 所場別乳量

生乳生産量実績・前年同期対比 (4-2月)



俳句・川柳コーナー

